

第2位 新しいコンセプトのCRAA機の試打会が東京で開かれた。(5月)

「大当たりまでの時間が早く、大当たり中のゲーム性を楽しめる、1円パチンコのエッセンスを持った4円パチンコ機」として、日遊協遊技機開発委員会が遊技機メーカーの協力で試作した新スペック機「CRAA」が5月20日、東京で展示・試打され、好評だった。さらに11年2月26日には東京で「未来遊技機試打会」(仮称)が予定されている。



CRAA機の試打会に会員各社の人たちが集まった

メンバーが選んだ 10大ニュース

恒例の2010年・日遊協10大ニュースを、11月中旬以降に開かれた理事会、専門委員会に出席したメンバーたちに投票で選んでもらった。トップは「リクナビLIVEへの日遊協ブース出展」、僅差で「CRAA機の試打会」「新・中古機流通制度スタート」が続いた。対象となるニュースは、昨年12月から今年11月まで1年間、日遊協単独か日遊協が関係した

出展 機

業界の出来事の中から、あらかじめ広報誌編集部が20項目を抽出し、投票者はそれを参考に順位を付けずに10項目を選んだ。投票者は69人だった。

業界の出来事の中から、あらかじめ広報誌編集部が20項目を抽出し、投票者はそれを参考に順位を付けずに10項目を選んだ。投票者は69人だった。

第3位 新・中古機流通制度がスタート。(6月)

全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商で構成する中古機流通協議会は、型式の同一性担保と責任所在の明確化を徹底するため、取扱主任者による事前点検確認を遊技機撤去後に行うことを前提とした新しい中古機流通制度の運用を開始した。新たに「撤去遊技機明細書」など4種類の書類が加わった。



東京都・関東支部主催の勉強会で石山敬達流通制度委員会委員長が講演

第4位 セキュリティー対策委とファン雑誌が攻略法詐欺撲滅連絡会結成。(5月)

全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商、自工会で構成するセキュリティー対策委員会と、攻略法販売会社の広告を掲載しないファン雑誌を出版している出版5社(のちに1社追加)は、協力して「パチンコ攻略法詐欺撲滅キャンペーン」を展開するため連絡会を結成した。各誌は8月号から当面半年間、キャンペーンを展開中。

第5位 8専門委員会など日遊協の新組織が始動。(4月)

中核は8専門委員会(「広報」「支部強化」「人材育成」「社会貢献・環境対策」「経営改革」「流通制度」「遊技機開発」「遊技機健全化」)で、システムを簡素化し、支部強化委以外は毎月開催にして機動性を高めた。「行動する日遊協」を強調し、横断的組織として将来の遊技産業を見据えた施策を提言する「政策集団」としても機能することを目標にしている。

新しくスタートした専門委員会の組織図



第1位 「リクナビLIVE★開幕LIVE東京」 に初の日遊協ブース出展。(11月)

日遊協は若い優秀な人材を遊技業界に招くため、11月6(土)、7日(日)、東京ビッグサイトで開かれた「リクナビLIVE★開幕LIVE東京」に、遊技産業を代表する形で「パチンコ業界特集」ブースを出展した。2日間で事前予測を上回る1189人の学生が入場した。(2~5ページに関連記事)



女子社員の経験談にもたくさんの聴衆が集まった

第6位 第21回通常総会で深谷会長続投。 新時代の遊技環境創出など重点。(6月)

「新時代にふさわしいビジネスモデルの創造等、安心安全な遊技環境の整備」「人づくり活動の推進」「環境問題への積極対応」など6項目の2010年度重点推進事項を採択した。役員改選で深谷会長の続投と新しい理事4人、監事1人の誕生が決まった。

第7位 「未経験者・休止者のパチンコ体験・対面調査」実施。(8月)

パチンコの未経験者と、やめて10年以上経っている休止者の男女32人を集め、体験・対面調査が行われた。体験前はほぼ全員がパチンコにネガティブ・イメージを持っていたが、体験後は未経験者の7割近く、休止者の6割近くがポジティブ・イメージに変わった。未経験者には騒音などの抵抗感から継続して遊ぶ意欲は低かった。(22~25ページに関連記事)

第8位 平本前会長、三上前専務理事が死去。 (8月、9月)

8月14日、三上和幸前専務理事(日遊協特別参与)が死去した。76歳。9月29日、平本将人前会長(日遊協相談役)が死去した。66歳。平本氏は97年から2001年まで会長を、三上氏は2000年から09年まで専務理事をそれぞれ務め、業界の健全化や横断的な諸問題の解決に大きな役割を果たした。

第10位 共生の森で第3回植林。(10月)

日遊協の里山づくり10年計画「共生の森」(埼玉県嵐山町花見台地区)事業が3年目に入った。第3回の植林日10月30日は台風14号接近による荒天のため、日遊協ボランティア派遣隊と社会貢献・環境対策委員会メンバーら大人たちの手で250本が植えられた。家族連れは屋内会場で工作教室、竹鉄砲遊び、絵手紙づくり、炊き出しの昼食を楽しんだ。



雨にたたられた第3回植林だが、子供たちは工作を楽しんだ

第9位 「第1回パチンコ・パチスロ『エッセー・絵手紙』コンクール」実施。(11月)

過去9回にわたった「パチンコ・パチスロ論文・作文コンクール」に代わる、「第1回パチンコ・パチスロ『エッセー・絵手紙』コンクール」が11月1日に募集を開始した。第1回のテーマは「パチンコと私」「パチスロと私」「未来のパチンコワールド」の3つ。業界、一般の参加は自由とする。締切は11年2月28日。

11位以下の主なニュース(発生月順)

●ホール5団体がECOで実務者会議設置(1月) ●今後の日遊協の役割などについての「有識者会議」開く(2月) ●日遊協ボランティア団体応援基金が第6回助成(2月) ●不正対策勉強会が5か所で集中開催(6、7月) ●「2010年パチンコ・パチスロに関するファンアンケート調査」(7月) ●ラスベガス研修2010(6、7月) ●日遊協皇居勤労奉仕団が奉仕活動(9月) ●日本盲導犬協会支援の「日遊協・親睦チャリティーゴルフコンペ」(11月)

理事会、委員会
10年 日遊協

首位「リクナビ」
続く「CRAA」

行政・業界 この1年の 動きは

2010年
広報誌掲載月別

■ 5月号 ■

警察庁が「風営白書」公表 店舗数が14年連続ダウン

警察庁が公表した「平成21年における風俗関係事犯等について」（風営白書）によると、09年（平成21年）12月末現在の全国の風俗営業の営業所（7号営業）のうち、パチンコ関連の営業所数は1万2652店舗で、前年同期より2・2%（285店）の減。営業所数の減少は14年連続となった。内訳は、パチンコ等設置店（パチスロ、ジャングル等併設）が1万1722店で、0・7%（78店）の減となった。パチスロ設置店は1000店の大台を割って930店となり、18・2%（207店）の減だった。

設置台数では、パチンコ機が07年以降微増を続け、312万9937台と前年同期より1・7%（5万3516台）の増となった。一方、パチスロ機は07年以降減り続けており、133万6880台と7・7%（11万1893台）減少した。合計台数は446万7092台で、1・3%（5万8423台）の減となった。1店舗あたりの台数は

電協・回胴遊商関係者、パチスロ情報誌の編集者やライターがパネラーで参加し、5号機に対するファンの生の声を聞いた。

最も多かった意見は出玉（メダル）に関する不満で、「短時間でもっとメダルが出るようにならないか。短時間しか打てない人にしわ寄せが来て不公平だ」「瞬発力がない」「ボーナス時の払い出しスピードを上げてほしい。爽快感を味わいたい」「ハイリスク・ローリターンを解消して」などだった。第2部は業界主要団体から19人が出席して討論会で、第1部のファンの意見も参考にしながら、パチスロ業況の打開策を議論した。

■ 1月号 ■

国民生活センターが警告 攻め法詐欺で実態を発表

独立行政法人国民生活センターは09年12月16日、「パチンコ・パチスロ攻め法に注意」と題して、攻め法詐欺に関する全国的な相談件数、相談事例、問題点をまとめて発表、消費者に注意を呼びかけた。

同センターがまとめた過去6年間（04年度から09年度11月末現在）のパチンコ・パチスロ攻め法に関する相談件数は1万8525件。内訳は商材関係（攻め情報等の販売）1万5182件、内職関係（打ち子・サクラ等の勧誘）3343件。

■ 3月号 ■

ファンと対話集会開く パチスロの復活かけて

件数を年度別に見ると04年度の2659件から右肩上がり続け、08年度は3755件となった。09年度は11月末現在で2186件（商材関係1448件、内職関係738件）となっている。

2部構成の討論会が2月28日、東京・秋葉原で日電協と回胴遊商主催で開かれた。第1部は「パチスロファンと業界関係者による直接対話集会」で、パチスロファン約170人が参加し、ホール・日



パチスロ集会。司会者の問いに手をあげて意思表示

353・1台で、0・9%（3・3台）の微増となった。

「カジノ議連」超党派で設立

カジノ合法化に向けた超党派の「国際観光産業振興議員連盟」（カジノ議連）の設立総会が4月14日、参議院議員会館で開かれた。同議連には民主、自民、公明、社民、国民新、みんななど各党の国会議員74人が入会した。会長に古賀一成氏（民主・衆）、会長代行に岩屋毅氏（自民・衆）、幹事長に牧義夫氏（民主・衆）が選任された。



あいさつする古賀一成会長

立入検査4494店舗に 09年度健全化推進機構

遊技産業健全化推進機構は4月16日、09年度の立入検査実績を発

表した。07年4月以降、推進機構の趣旨に賛同して誓約書を提出したホールを対象に随時・無通知で立入検査が行われているが、09年4月1日からさる3月31日までの立入店舗数は4449店舗（47都道府県）にのぼった。07年度は767店舗、08年度は2995店舗の実績で、3年間の総計は8211店舗となった。

6月号

全日遊連が入替自粛 APECで1か月以上

全日遊連は5月21日、全国理事会を開き、「APEC（アジア太平洋経済協力会議）開催に伴う遊技機の入替自粛」を討議、①APEC開催に伴い治安活動に問題が生じないよう、警察業務の軽減への協力並びにCO2削減のため遊技機の入替自粛を実施する。②自粛期間は10月1日から11月30日のうち各地域の実情に応じて調整し、1か月以上を各都道府県方面組合で設定、首脳会議（横浜市）開催日である11月13、14日を含むこととする——を決めた。

8月号

保安課長に加藤達也氏

警察庁は7月12日付で、廣田耕一保安課長の警察庁交通局付（海外調査研究予定）への転出に伴う後任の保安課長に加藤達也内閣衛星情報センター管理部運用情報管理部長を発令した。

8月4日は「パチスロの日」

日電協と回胴遊商が共催して、「8月4日はパチスロの日」と制定してキャンペーンを展開することになり、プレス発表会が7月7日、東京・上野のラ・ベルオーラムで開かれた。

箱型のスロット、いわゆるパチスロが1980年に登場して30周年となるのを機に、今年から毎年8月4日を「パチスロの日」とし、パチスロ文化への理解とパチスロ人気の再浮揚を図るのが目的。「8」をパチ、「4」をスロと読む。

6月号

市場規模、6年連続ダウン 「レジャー白書2010」

公益財団法人日本生産性本部は7月30日、「レジャー白書2010」

を発表した。09年は景気の低迷と新型インフルエンザの流行が重なる一方で、高速道路料金をはじめレジャー関係の価格低下の影響があり、利用客の出足そのものは節約志向の下で比較的堅調という種目や業界も少なくなかった。パチンコ・パチスロ産業については、市場規模（パチンコ・パチスロの貸玉・貸メダル料金）は前年比3%減の21兆650億円となり、あわや21兆円の大台割れという状況だった。落ち込みは6年連続となった。ホール数は14年連続して減少した。遊技機設置台数では、パチンコ機は前年比2・7%増加したが、パチスロ機は7%の大幅な減少だった。パチスロ機は10年に入ってやや持ち直し傾向が見える。1店舗当たりの遊技機設置台数は増加傾向にあり、店舗の大型化が進行している。大型店の増加、中小店との格差拡大が進む中で、低価格営業の普及など多様な営業形態が生まれつつあった。